

格助 四段・体 接助
と **申す** **に**、帝、「さて、**何も**、**書きたらむもの** **は**、**読みてむや**」。
(K)作者↓嵯峨天皇 接続詞 係助 存続「たり」終 四段・用 推量「む」終

と申し上げると、帝が、「それでは、何でも書いてあるようなものは、読むのだろうか。」
 (読めるのか)

格助 下二・未 尊敬「むる」用 接助 四段・用 婉曲「む」体 係助 強意「つ」未 係助
と **仰せ** **られ** **けれ** **ば**、**何に** **ても** **読み** **候ひ** **なむ**、**と** **申し**
(S)作者↓嵯峨天皇 過去「けり」已 断定「なり」用 四段・用 補四段・用 意思「む」終 四段・用 強意「ぬ」未 格助 四段・用 推量「む」終
(K)作者↓嵯峨天皇

とおっしゃったので、「何でもきつと読みませう。」と申し上げ

過去「けり」已
けれ **ば**、**片仮名の** **「ね」** **文字** **を** **十二書** **かせ** **給ひ** **て**、**「読め。」** **と**
(S)作者↓嵯峨天皇 格助 格助 四段・未 補四段・用 接助 四段・命 格助

たところ、(帝が)片仮名の「子」の文字を十二個お書きなさつて、「読め。」と

下二・未 尊敬「むる」用 接助
仰せ **られ** **けれ** **ば**、**「ねこの** **子の** **「こねこ、** **ししの** **子の** **「こじし。」**
(S)作者↓嵯峨天皇 過去「けり」已 格助 格助 格助 格助 格助 格助

おっしゃったので、「猫の子の子猫、獅子の子の子獅子。」

四段・用 過去「けり」已 四段・未 補四段・用 接助
と **読み** **たり** **けれ** **ば**、**帝** **ほほ** **笑** **ませ** **給ひ** **て**、**事** **なく** **て** **やみ**
(S)作者↓嵯峨天皇 完了「たり」用 接助 尊敬「す」用 (S)作者↓嵯峨天皇 形・ク活用・用 四段・用 四段・用

と読んだところ、帝は微笑みなさつて、おとがめなく終わったの

過去「けり」終

に **けり**。

完了「ぬ」用

だった。

申す…申す…申し上げる
 (「言ひ」の謙讓語)

さて…そうして…そこで…さて
 (ところが) 接続詞
 (そのまま) 副詞

仰す…おっしゃる
 (「言ひ」の尊敬語)

給ふ…おくるになる…される
 (尊敬の補助動詞)
 お与えになる
 (「与ふ」「授く」の尊敬語)

事なし…何事もない
 たやすい など
 やむ…おさまる
 とりやめになる